

まいづるパート II

令和5年度 No.8 校長室だより

通算No.26 (R5. 7. 6)

霧島市立国分小学校長

☆ P T A活動に思う ☆

最近、P T A活動に関するご意見をいただく機会がありましたので、私なりに考えているP T A活動の在り方等について記したいと思います。



コロナが流行る前、P T A関係の会合等に参加するとP T Aの在り方に関する議論が盛んになってきていました。その大きなものとしては、負担が大きすぎて役員等へのなり手がなく、行事等が多くて時間をとれない(追われる)こと、行事等の企画・運営を学校職員にお任せになってしまっていることなどが挙がっていました。(ただ、最近はコロナの関係で行事や活動自体が縮小し、そういう声は潜在化してしまっているようです。)

そもそもP T Aは、任意の社会教育団体であるにも関わらず、加入・非加入の意思を確認せずに、なかば当たり前のように全員が会員になっていることから問題が生じているような気がします。そしてさらに問題なのが、どうしても前例踏襲主義に陥ってしまい、活動自体に魅力を感じなくなってしまうことなどが考えられます。

こう述べてしまうと、そもそもP T Aは必要あるの?という議論になってしまいます。私は後から述べるように必要のあるものだと考えています。このような問題が生じたときには、多くのことと同じように、原点に立ち戻って考えるべきだと思います。

P T A活動の目的は、昔は給食の完全実施や教科書の無償化、校舎の整備等を行政に訴えるなど、教育環境を整えることが主眼でありましたが、現在は親と教師が協力し合って、「**子どもたちのより良い成長を促す**」ために、主に学校管理下外で行われる体験的な活動を中心に、組織的に運営・活動することとなっています。一人ではできないことが組織として動くことで、「**子どもたちのため**」の大きな力になります。そういう意味ではP T A活動は必要な存在だと考えています。(全員の子どもの成長を願って活動することで、我が子の成長にもつながります。また、現在でも、例えば給食費無償化などの声をP T A団体として、議会や行政に届ける活動を行うこともできると考えます。)

それから、我々教員は異動で学校をいつかは去りますが、子どもたちの多くはそこに住み続け、その地域は自分の故郷として心に刻まれることになります。地域の行事等に同年齢や異年齢の子どもや地域に住む大人などが関わることで、さらにその意識が高まります。子ども会活動に参加したり、地域の夏祭り等に一家庭だけで参加するのではなく、学級(学年)PTA等集団で参加したりすることで、ふるさと意識が高まるのです。そのためにもPTA活動は重要な役割を担うことになります。



また、愛校作業や朝の交通指導、バザー等も、学校管理下外の時間帯に、子どもたちのために保護者等が参加して下さっています。ある外国のように、学校に警備員を配置し、登下校はスクールバス、掃除も作業も業者が入っているような、教育に多額の予算を付けられる国とは違い、日本はP会員等のボランティアに助けられているのが実情となっています。

それから、P T A会員を対象にした、様々な研修会や研究大会等が実施されていますので、子育てや家庭教育などについて学ぶこともできます。(自分自身の成長にもつながります。)

これらを踏まえ、P T A活動の在り方を考えるとき、「**子どもたちのために**」とか、「**子どもたちのより良い成長**」など念頭に、これまで行ってきた活動等を見直し、目的は何なのか、どのように取り組めばよりベストなのか、そんなことを原点に戻って考える必要があると考えています。

今、世の中は「働き方改革」「業務改善」などが叫ばれています。日本人は他の国の人と比べて「働き過ぎ」との調査結果も出ています。日本人の美徳として、丁寧さや根気強さなどが挙げられますが、無理をし過ぎる面もあるようです。そのために精神疾患に陥ったり、自死に至ったりするケースも…。

仕事で疲れ、P T A活動でも疲れているのは、元も子もないと思います。P T A活動は仕事の疲れを吹き飛ばすような、子どもを介した「**仲間がいる楽しい場所**」、いわゆるサークルみたいな存在になっていくのがベストだと思っています。そんなことはあり得ないと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、子どもを育てているという共通点のもと、皆さんの知恵を出し合えば、決して不可能じゃないと思っています。



来年度は、創立150周年を迎えます。子どもたちにとって思い出深い、記憶に残る年になればいいなと思っています。そのためには、保護者の皆さんをはじめ、地域の皆さんの協力や理解が必要になってきます。「**子どもたちのために**」という原点を忘れず、みんなで協力し合い、P T A活動を盛り上げていきましょう!